

慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ シンポジウム

ここから地方創生 xSDGを語り始める

SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) は、持続可能な地球社会へ向けた変革を「誰ひとりとして取り残さず」に実現するために、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標です。発展途上国と先進国が力を合わせ、あらゆる主体が取り組んではじめて達成可能な、2030年へ向けた目標なのです。そのエッセンスは、例えば企業や地方自治体といった多様な主体が行う活動に、SDGsを「掛け合わせ」てコラボレーションを行うことで、これまでできなかったことを実現していくことにあります。慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ(エックスSDG・ラボ)は、こうしたコラボレーションによる研究によって社会課題を解決するために生まれました。

今回のシンポジウムでは、「地方自治体xSDG」をテーマに議論を行います。自治体でSDGsを推進するカギは何か? ビジネスチャンスを生み出すにはSDGsをどうとらえればよいのか? SDGsをめぐるコラボレーション創出はどのように行えばよいのか? 課題とコラボレーションの可能性を明らかにします。

日時: 2018年2月13日(火) 13:00~17:00

場所: 国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール

〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16

<http://www.i-house.or.jp/access.html>

※シンポジウム終了後、レセプション開催(会費制3,000円)

Keio University



環境省 戦略的研究開発領域課題 (S-16)

PECoP-Asia

Policy Design and Evaluation to Ensure Sustainable Consumption and Production Patterns in Asian Region



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

IGES

公益財団法人
地球環境戦略研究機関



朝日新聞

[主催] 慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ

環境省環境研究総合推進費「S-16 アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価: テーマ4 持続可能な開発目標 (SDGs) からみた持続可能な消費と生産のガバナンス」

[協力] 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) / 公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) / SDSN Japan

[後援] 外務省/内閣府地方創生推進室

[メディアパートナー] 朝日新聞社

13:00 ~ 13:10

ご挨拶

すずき・ひでお

鈴木 秀生

外務省地球規模課題審議官 大使

昭和38年2月24日生まれ。昭和60年4月外務省入省。平成11年7月経済協力開発機構日本政府代表部一等書記官、平成14年1月経済協力開発機構日本政府代表部参事官、同年5月総合外交政策局総務課企画官、同年12月総合外交政策局総務課主任企画官。平成16年8月経済協力局無償資金協力課長。平成18年8月欧州局政策課長。平成20年1月在アメリカ合衆国日本国大使館参事官。平成21年1月在アメリカ合衆国日本国大使館公使。平成23年8月在ベトナム日本国大使館公使。平成26年7月北米局参事官(兼アジア大洋州局)。平成27年10月在大韓民国日本国大使館公使。平成29年7月より現職。



13:10 ~ 13:40

講演1：xSDG：SDGsの核心にせまり、革新する

かにえ・のりちか

蟹江 憲史

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS) シニアリサーチフェロー
北九州市立大学講師、助教授、東京工業大学大学院准教授を経て現職。欧州委員会Marie Curie Incoming International Fellow及びパリ政治学院客員教授などを歴任し、2015年から母校にて活動中。

Future Earth SDG Knowledge Action Network(KAN) 共同議長、同コアプロジェクトEarth System Governance プロジェクト Scientific Steering Committee 委員、日本政府SDGs推進本部円卓会議委員、内閣府地方創生推進事務局自治体SDGs推進のための有識者会議委員など、国際的、国内的にSDGsや環境問題を中心に多方面で活躍中。

専門は国際関係論、地球システム・ガバナンス。2012年度のFSを経て、2013年度から2015年度までは環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-11(持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト)プロジェクトリーダーを務めた。SDGs研究の第一人者であり、研究と実践の両立を図っている。

研究プロジェクトホームページ：<http://kanie.sfc.keio.ac.jp/>



13:40 ~ 14:10

講演2：システム思考に基づく持続可能な開発目標(SDGs)の統合化

たけうち・かずひこ

武内 和彦

東京大学サステナビリティ学連携研究機構 機構長・特任教授、公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長

1974年東京大学理学部卒業、1976年同大学院農学系研究科修士課程修了。農学博士。東京大学農学部助教授などを経て、1997年より2012年まで同大学院農学生命科学研究科教授。2008年より国連大学副学長。2012年より2017年3月まで東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)機構長・教授。2013年より2016年6月まで国連大学上級副学長、国連事務次長補。2017年4月より東京大学IR3S機構長・特任教授。同年7月より公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)理事長。中央環境審議会会長、日本学術会議副会長、Sustainability Science誌(Springer)編集長などを兼務。

専門は、緑地環境学、地域生態学、サステナビリティ学。著作は、「サステナビリティ学」(全5巻、共編著、東京大学出版会)

「Satoyama-Satoumi Ecosystems and Human Well-being: Socio-Ecological Production Landscape of Japan」(UNU Press、共編著)、「世界農業遺産」(祥伝社新書)、「日本の自然環境政策—自然共生社会をつくる」(東京大学出版会、共編著)など。



14:10 ~ 14:25

講演3：SDGsと神奈川の取組み ～いのち輝く神奈川を目指して～

くろいわ・ゆうじ

黒岩 祐治

神奈川県知事

昭和29年9月26日生まれ(兵庫県神戸市出身)。昭和55年早稲田大学政経学部卒業。昭和55年(株)フジテレビジョン入社、「FNNスーパータイム」・「報道2001」キャスター等で活躍。自ら企画・取材・編集まで手がけた救急医療キャンペーン(平成元年～平成3年)が救急救命士誕生に結びつき、平成2年に第16回放送文化基金賞と民間放送連盟賞を受賞。平成21年国際医療福祉大学大学院教授に就任。研究テーマは「医療・福祉に関する実践的メディア論」「医療・福祉に関する報道の検証」「メッセージ力の高め方」など。平成23年4月神奈川県知事に就任。「いのち輝くマグネット神奈川」の実現に取り組む。太陽光発電やスマートハウスの普及、超高齢化社会を乗り切るための政策「ヘルスケア・ニューフロンティア」、介護・医療など生活支援ロボットの実用化、健康長寿社会を見据えた「人生100歳時代の設計図」の取組みなどを進めている。平成27年4月より二期目。著書に「百歳時代—未病、のすすめ—」[IDP新書(2016/06)]など、多数。



14:25 ~ 14:55

講演4：地方創生に向けた自治体SDGsの推進について

おかもと・なおゆき

岡本 直之

内閣府 地方創生推進事務局次長

1985年東京大学法学部卒業。1985年大蔵省入省。1991年横浜市企画財政局財政部財政課財政担当課長。2007年長野県企画参事(知事特命担当)。2009年財務省主計局主計官(内閣、司法・警察、財務係担当)。2010年内閣官房行政改革推進本部事務局参事官。2012年財務省理財局総務課長。2013年財務省大臣官房審議官(理財局担当)。2014年内閣官房日本経済再生総合事務局次長。2016年財務省大臣官房審議官(大臣官房担当)。2017年7月より現職。



14:55 ~ 15:05 コーヒーブレイク

パネルディスカッション

第一部・第二部 ナビゲーター

くにや・ひろこ
国谷 裕子

東京芸術大学理事 / 慶應義塾大学特別招聘教授 / 自然エネルギー財団理事 / FAO (国連・食糧農業機関) 親善大使 (日本担当) / 米日カウンシル評議員会評議員

大阪府生まれ。米ブラウン大学卒業。NHK「7時のニュース」英語放送の翻訳・アナウンス、NHK衛星放送「ワールドニュース」キャスターを担当。1993年から2016年3月までNHK総合テレビ「クローズアップ現代」キャスターをつとめる。この間、特別番組や「NHKスペシャル」等の番組キャスターも担当。2016年より「持続可能な開発目標SDGs」の啓発活動を行なっている。1998年放送ウーマン賞、02年菊池寛賞、11年日本記者クラブ賞、16年ギャラクシー賞特別賞受賞。著書「キャスターという仕事」(岩波新書)。



15:05 ~ 15:55

「語り始め」の発言者

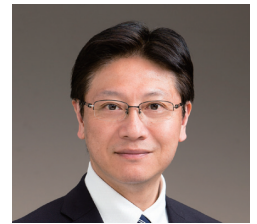
第一部：SDGsで解決したい自治体の課題は何か？ どう取り組めばよいのか？

たなべ・のぶひろ

田辺 信宏

静岡市長

1961年静岡県静岡市生まれ。1985年に早稲田大学政治経済学部卒業。卒業後、松下政経塾に6期生として入塾。1987年からイギリスのサセックス大学に留学し、国際関係論を専攻。静岡産業大学講師、早稲田大学マニフェスト研究所客員研究員を務める。静岡市議会議員(1期)、静岡県議会議員(3期)を経て、2011年静岡市長に就任(現在、2期目)。



たにおか・しんいち

谷岡 慎一

豊岡市政策調整部参事 (戦略的政策分野担当)

1969年兵庫県豊岡市生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科修了。1995年より大蔵省(財務省)で勤務し、財務省国際局開発金融課係長としてODA(政府開発援助)を担当後、退官。2002年より故郷(豊岡市)に帰り、北但合併協議会事務局長、2005年合併後は豊岡市行革推進室長、経済部長、但東振興局長等を歴任。2017年より現職、また中央大学法学部非常勤講師。

2017年9月には国際開発学会と共催で豊岡市にてSDGsについてのシンポジウムを開催。

著書に『IMFと法』信山社(2000年)、共著として『公民パートナーシップの政策とマネジメント』ひつじ書房(2006年)などがある。2013年より主に自治体職員向けの塾として谷岡塾を主宰。



みのしま・たけし

蓑島 豪

北海道下川町環境未来都市推進課 SDGs 推進戦略室長

1993年下川町入庁。2004年北海道総合企画部へ出向。2007年総務課企画財政グループにて「下川町総合計画」策定の主担当。2013年環境省地球環境局へ出向。

2015年総務課企画財政グループにて「下川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の主担当。2016年から現在、環境未来都市推進課SDGs推進戦略室にてSDGs、環境未来都市、地方創生の主担当。



かけい・ゆうすけ

寛 裕介

issue+design 代表 / 博士 (工学)

1975年生まれ。一橋大学社会学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士)。

2008年issue+design 設立。以降、社会課題解決、全国各地の地域活性化のためのデザインプロジェクトに取り組む。

著書に『ソーシャルデザイン実践ガイド』『みんなで作る総合計画』『震災のためにデザインは何か可能か』『人口減少デザイン』など。代表プロジェクトに、人との出会いを楽しむ旅のガイドブック「Community Travel Guide」、震災ボランティア支援の「できますゼッケン」、住民参加で作る総合計画「高知県佐川町みんなで作る総合計画」など。

グッドデザイン賞、日本計画行政学会・学会奨励賞、竹尾デザイン賞、カンヌライオンズ(仏)、D&AD(英)、Shenzhen Design Award 2014(中)、他受賞多数。



かにえ・のりちか

蟹江 憲史

15:55 ~ 16:45

「語り始め」の発言者

第二部 地域の持続性を高めるための変革にむけて

いその・くみこ

磯野 久美子

自然電力グループ juwi 自然電力オペレーション株式会社 代表取締役

マッキンゼー・アンド・カンパニーにて、資源エネルギー・化学、製薬を中心とした複数業界の中期経営計画、マーケティング戦略策定等のプロジェクトに従事。2014年自然電力株式会社に参画後、2015年4月より現職。
慶應義塾大学総合政策学部卒業、カリフォルニア大学バークレー校Haas MBA。



くるだ・かをり

黒田 かをり

一般財団法人 CSO ネットワーク事務局長・理事

民間企業に勤務後、コロンビア大学経営大学院日本経済経営研究所、米国の民間財団であるアジア財団日本の勤務を経て、2004年にCSO ネットワークに入職。2010年よりアジア財団のジャパン・ディレクターを兼任。日本のNGO代表としてISO26000(国際標準化機構の社会的責任規格)の策定に参加。2013年、福島有機農家や研究者らと地域のカフォーラムを立ち上げ地域の力診断ツールを作成、地域でワークショップ等を実施。SDGs推進円卓会議構成員、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「持続可能な調達コード」WG委員、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク代表理事、SDSNジャパン理事、日本サッカー協会社会連携委員会委員などを務める。



もりた・たかゆき

森田 隆之

日本電気株式会社 NEC 取締役執行役員常務兼 CGO (チーフグローバルオフィサー)

1983年NEC入社。以後、6年間の米国駐在を含めグローバル事業開発/市場開拓において約36年の豊富な経験をもつ。このうち15年以上はパートナー企業との関係構築強化や事業の買収・売却に深く関わり成果を取ってきた。2011年から2016年3月迄は、US\$6B規模、10,000名のスタッフを配下にもつ海外ビジネスユニット長として先進的なICTを駆使し様々な社会ソリューションのグローバル展開を推進すると共に、NEC初の本社事業部シンガポール設立や海外R&Dセンター拡大に尽力し、ビジネス拡大に貢献した。2016年4月より社長直轄のCGOを担当し、国際機関やグローバル大企業のビジネスリーダーとも密接に協力し社会ソリューションの更なるグローバル展開加速に取り組んでいる。



かけい・ゆうすけ

寛 裕介

16:45 ~ 17:00

クロージングセッション

なかい・とくたろう

中井 徳太郎

環境省総合環境政策統括官

東京大学法学部卒業。大蔵省入省後、主計局主査などを経て、富山県庁へ出向。日本海学の確立・普及に携わる。その後、財務省理財局計画官、財務省主計局主計官(農林水産省担当)などを経て、東日本大震災後の2011年7月の異動で環境省に。総合環境政策局総務課長、大臣官房会計課長、大臣官房秘書課長、大臣官房審議官、廃棄物・リサイクル対策部長を経て、2017年7月より現職。



閉会挨拶

むらい・じゅん

村井 純

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長、環境情報学部教授 / 慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ メンバー / 工学博士 (慶應義塾大学・1987年取得)

1984年東京工業大学と慶應義塾大学を接続した日本初のネットワーク間接続「JUNET」を設立。1988年にはインターネット研究コンソーシアムWIDEプロジェクトを発足させ、インターネット網の整備、普及に尽力。初期インターネットを、日本語をはじめとする多言語対応へと導く。内閣高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT総合戦略本部)有識者本部員、内閣サイバーセキュリティセンターサイバーセキュリティ戦略本部本部員、社団法人情報処理学会フェロー、日本学術会議第20期会員。その他、各省庁委員会の主査や委員などを多数務め、国際学会等でも活動。

日本人で初めてIEEE Internet Awardを受賞。ISOC(インターネットソサエティ)の選ぶPostel Awardを受賞し、2013年同「インターネットの殿堂(パイオニア部門)」入りを果たす。「日本のインターネットの父」「インターネットサムライ」として知られる。

